

日本簿記学会ニュース

No. 52:12 / 2011

《部会・大会の経過報告》

第27回関東部会は、平成23年6月25日(土)に帝京大学(準備委員長:岩崎健久氏)にて、第27回全国大会は、平成23年8月25日(木)から27日(土)に法政大学(準備委員長:菊谷正人氏)にて、各々開催されました。詳しい内容は本紙部会記および全国大会記をご覧ください。

《大会・部会のご案内》

第28回関西部会は、平成24年5月26日(土)に名城大学(準備委員長:田代樹彦氏)にて、第28回関東部会は、平成24年6月30日(土)に岩手県立大学(アイーナキャンパス)(準備委員長:金子友裕氏)にて、第28回全国大会は、平成24年9月8日(土)から10日(月)に熊本学園大学(準備委員長:藤田昌也氏)にて各々開催される予定です。

《第27回全国大会正会員出席者状況》

第27回全国大会への正会員の出席者の状況は以下の通りでした。

	全	体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	320名		256名	29名	14名	18名	3名
比率	100.0%	(注)	80.0%	9.1%	4.4%	5.6%	0.9%

(注) 各区分の比率を小数点第一未満で四捨五入しているため、僅少差0.1%が生じておりますが、便宜上、表示しておりません。

《役員選挙・役割決定について》

日本簿記学会第27回全国大会において、新役員が次のように決定しました(五十音順)。

会 長: 新田忠誓 (帝京大学)

副会長: 氏原茂樹 (流通経済大学)

原田満範 (松山大学)

理 事: 【大学関係】 岩崎 勇 (九州大学) 学会ニュース

河崎照行 (甲南大学) 研究

瀧田輝己 (同志社大学) 会員

田宮治雄 (東京国際大学) 会員

中野常男 (神戸大学) 会務

藤井秀樹 (京都大学) ホームページ

浦崎直浩 (近畿大学) 大会・部会

倉田幸路 (立教大学) 学会誌

田中建二 (明治大学) 研究

千葉啓司 (千葉商科大学) 学会ニュース

原 俊雄 (横浜国立大学) 大会・部会

【高校関係】 粕谷和生 (横浜市立横浜商業高等学校) ホームページ

【専門学校関係】 中島利郎 (全国経理教育協会・中央情報経理専門学校) 会務

【職業会計人関係】 北村信彦 (公認会計士) 会計

監 事: 泉 宏之 (横浜国立大学) 高須教夫 (兵庫県立大学)

幹 事: 清水泰洋 (神戸大学) 中村亮介 (帝京大学) 和田博志 (近畿大学)

渡邊貴士 (亜細亜大学短期大学部) 渡辺雅雄 (明治大学)

《学会賞審査委員会》

学会賞審査委員会が下記の通り決定しました。

委員長：佐藤信彦(明治大学)

委員：大学(関東) 泉 宏之(横浜国立大学), 大学(関西) 柴 健次(関西大学)

職業会計人 生駒和夫(公認会計士), 高校・専門学校 渡部浩一(川口総合高等学校)

《学会誌編集委員会》

学会誌編集委員会が下記の通り決定しました。

委員長：倉田幸路(立教大学)

委員：大学 石原裕也(帝京大学), 菱山 淳(専修大学), 齊野純子(甲南大学), 桑原正行(香川大学)

職業会計人 寺田誠一(公認会計士) 高校・専門学校 遠藤耕二(都立千早高等学校)

《ホームページ委員会》

ホームページ委員会が下記の通り決定しました。

委員長：藤井秀樹(京都大学)

委員：西山一弘(東海大学), 和田博志(近畿大学)

《平成 22・23 年度研究部会のメンバー追加》

平成 22・23 年度研究部会のメンバーが下記のとおり追加されました。

簿記理論研究部会：「現代簿記論に関する研究：現代簿記論の生成と展開について」

部会長：橋本武久(京都産業大学)

追加メンバー：石原裕也(帝京大学), 西舘 司(愛知学院大学)

簿記教育研究部会：「明治以降の商業学校の簿記・会計教科書の歴史の研究」

部会長：木戸田力(佐賀大学)

追加メンバー：伊藤昭弘(佐賀大学地域学歴史文化研究センター), 今枝千樹(愛知産業大学)

簿記実務研究部会：「地域振興のための簿記の役割ー農業・地場産業を対象として」

部会長：戸田龍介(神奈川大学)

追加メンバー：井原理代(香川大学名誉教授), 金子友裕(岩手県立大学), 仲尾次洋子(名桜大学)
成川正晃(高崎商科大学短期大学部), 姚 小佳(近畿大学大学院)
梶原 晃(追手門大学) オブザーバー：清村英之(沖縄国際大学)

《平成 24・25 年度研究部会の募集》

平成 24・25 年度の簿記理論研究部会, 簿記実務研究部会, 簿記教育研究部会を下記の通り募集いたします。申し出は, 研究テーマ・メンバーを明記の上, 事務局宛にお願いいたします。

- (1) 研究期間は, 第 28 回全国大会(平成 24 年) 会員総会承認から 2 年です。
- (2) 研究成果の報告は, 1 年経過後の第 29 回全国大会(平成 25 年) における中間報告および第 30 回全国大会(平成 26 年) における最終報告の 2 回となります。
- (3) 研究成果につきましては冊子を作成いただきます。
- (4) 研究部会費は 1 部会 200,000 円(年間) です。
- (5) 研究部会メンバーは当学会会員とします。
- (6) 研究部会メンバーの人数に制限はありません。

《平成 23 年度日本簿記学会・学会賞及び奨励賞の選考結果と授賞作品》

第 27 回全国大会（法政大学）の会員総会にてご報告いたしましたように、本年度の学会賞と奨励賞は、学会賞審査委員会（委員長：中野常男、委員：粕谷和夫、高須教夫、田中建二、山本 巖）における選考とその結果報告を承けて、理事会において、以下のように決定いたしました（なお、授賞理由については、既に会員総会にて公表しておりますので、紙幅の関係から省略させていただきます）。

学会賞：授賞該当作品なし

奨励賞：和田博志氏（近畿大学）

「誘導法による株主資本等変動計算書の作成」

（第 26 回関西部会・統一論題報告）

三光寺由実子氏（松山大学）

「14 世紀リヨンの毛織物業者の会計帳簿 (1320-1324) の分析」

（第 26 回全国大会・自由論題報告）

（いずれの論文とも『日本簿記学会年報』（第 26 号）に掲載済み）

学会賞については、候補作品として 3 点（単著 2、論文 1）の他薦・自薦の推薦があり、これらの作品について、8 月 25 日開催の審査委員会にて、①新規性、②信頼性、③有用性、④適合性という 4 つの評価基準に基づき審査を行いました。残念ながら、本年度は授賞見送りという決定になりました。

また、奨励賞については、6 月 25 日開催の審査委員会にて『年報』掲載論文の中から予備選考（年齢等の形式審査）を行い候補作品 8 点を選んだ上で、これらの論文について、8 月 25 日の審査委員会において学会賞と同様の 4 つの評価基準に基づき審査を行い、上記の 2 点を授賞作品として選考いたしました。

審査委員会では、「日本簿記学会」の学会賞と奨励賞にふさわしいものを授賞作品として選考するという基本方針で審査にあたりましたが、学会賞については残念ながら昨年度と同様に授賞見送りとなりました。研究業績（著書・論文）のみならず、「簿記に関する教育上および実務上の工夫」も授賞の対象になりますので、会員諸氏におかれては、他薦・自薦を問わず、適切な候補作品の推薦をお願いいたします。また、奨励賞については、『年報』に掲載された論文に授賞対象が限られますので、まずは全国大会または地域部会にてご報告いただき、その内容をまとめられて『年報』への投稿を積極的に行っていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

日本簿記学会学会賞審査委員会
委員長：中野常男

《日本簿記学会奨励賞規程改正について》

（趣旨）「授賞対象の決定」に関する学会賞規程と奨励賞規程の文言の統一（奨励賞規程第 7 条の字句を学会賞規程第 9 条に合わせる）

○日本簿記学会奨励賞規程改正

改正後	現行
日本簿記学会奨励賞規程 平成 21 年 8 月 26 日制定 平成 23 年 8 月 25 日改正	日本簿記学会奨励賞規程 平成 21 年 8 月 26 日制定
第 7 条 授賞対象は、審査委員会が選考を行い、選考結果を理事会に報告のうえ、理事会が決定する。	第 7 条 授賞対象は、審査委員会が審査結果を理事会に報告し、理事会が決定する。
（附則） この規程は、平成 21 年 4 月 1 日より実施する。 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日より実施する。	（附則） この規程は、平成 21 年 4 月 1 日より実施する。

日本簿記学会第 27 回関東部会記

帝京大学 岩崎健久
準備委員長

日本簿記学会第 27 回関東部会（準備委員長：岩崎健久）は、平成 23 年 6 月 25 日（土）に帝京大学八王子キャンパスで開催された。参加者は 78 名であった。統一論題は、「新しい企業行動と簿記—環境変化に対応する簿記理論と簿記教育・考—」とであり、昨今の経済環境に応じた企業行動の多様化に直面して、簿記理論がいかなる対応をしているか、または、なすべきかについて、藤永弘氏（青森公立大学）の司会のもと、次の 4 氏による報告と討議が行われた。

第 1 報告は、尾畑裕氏（一橋大学）による「製造業の環境変化と工業簿記」であった。同氏は、今までの工業簿記が、主に財務諸表の作成に焦点を当てており、経営者の観点からの議論が必ずしも十分ではなかったことを問題点として掲げ、経営者のニーズに応える計算方法とされるスナップショット・コストイングを前提に、経営者の観点から、工業簿記はどうあるべきかについて仕訳例を用いて報告した。そして、製品の種類ごとの勘定が重要であること、およびカレントな数量要素とカレントな価値要素を合成することにより、緩やかなマッチングが可能になり、経営者にとって意味のある情報になりうることを主張した。

第 2 報告は平石智紀氏（監査法人アヴァンティア）による「M&A と簿記」であった。同氏は、「企業結合に関する会計基準」の適用前後における簿記の特徴と問題点を、実際の M&A 事例をもとに示し、今後の会計基準の変化が M&A に関する実務に与える影響について報告した。そして、M&A に関する制度については、新しい M&A の手法が出現したとしても、いわゆる「抜け道」を作らせないような体制をとることが必要であるとの提言がなされた。

第 3 報告は渡部浩一氏（川口総合高等学校）による「ポイント会計と簿記」であった。同氏は、ポイントシステムに注目し、新たなビジネスモデルの誕生により、ポイントの捉え方および会計処理を再検討すべきと論じた。そして、実際のポイントシステ

ムの会計処理を検討した後、本来、移行コストを高めることによる顧客のつなぎ止めを狙ったツールであったものが、共通ポイント化により、逆に移行コストを減少させる結果を生じさせていることを指摘し、環境の変化とともに会計処理も変化させていくべきであると主張した。

第 4 報告は菱山淳氏（専修大学）による「リース会計基準の変遷と簿記」であった。同氏は、予定されているリース会計基準の改訂により、現行のリース契約の処理に大幅な変更が迫られることを鑑み、この基準の改訂と簿記処理の変化がもたらす意味について、仕訳例を用いて報告した。そして、会計基準の予定されている変更の基礎に、「物」の取得から「権利」の取得へという認識対象の変化が存在すること、およびこれによって財務諸表に計上される金額も変化することを説明した。さらに、認識対象の変化にともない、リース期間の見積もりに経営者予測が混入することを指摘した。

統一論題討論では、4 氏の報告に対し、中野貴元氏（㈱ユビキタス）、野口教子氏（東京理科大学）、平野智久氏（慶應義塾大学大学院）、水谷文宣氏（慶應義塾大学大学院）、原俊雄氏（横浜国立大学）、成川正晃氏（高崎商科大学）、青木孝暢氏（白鷗大学）、上野清貴氏（中央大学）から質問が寄せられ、活発な議論が繰り広げられた。

討論の後、司会の藤永氏より、東日本大震災の復興に向けて、簿記・会計の研究者として何ができるかという問題が提起された。これに対し、横山和夫氏（東京理科大学）、中島利郎氏（全国経理教育協会）、岩田俊行氏（ネットスクール㈱）より、それぞれ意見が寄せられ、本部会は盛会のうちに終了した。

最後に、ご参加いただいた会員の方々および簿記学会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



司会者の藤永弘氏



統一論題報告者。右から尾畑裕氏、平石智紀氏、渡部浩一氏、菱山淳氏

日本簿記学会第 27 回全国大会記

法政大学 菊谷 正人
準備委員長

日本簿記学会第 27 回全国大会は、8 月 25 日（金）から 8 月 27 日（日）までの 3 日間にわたり、法政大学にて開催された。CPE 研修等で当日受付をした会計士の方々を含め、370 名近くの方々に参加いただいた。大会初日（8 月 25 日）には、選挙管理委員会、学会賞審査委員会、理事会が開催され、大会 2 日目（8 月 26 日）には、大会プログラムのほか、高等学校簿記教育懇談会も開催された。

大会 2 日目は、会員総会より始まった。会務報告、入退会者、決算および監査等について各担当理事から提案され、承認された。続いて、高須教夫氏（兵庫県立大学）を司会として研究部会報告が行われた。簿記理論研究部会「現代簿記論に関する研究—現代簿記論の生成と展開について—」（部会長：橋本武久氏、京都産業大学）、簿記教育研究部会「明治以降の商業学校の簿記・会計教科書の歴史の研究」（部会長：木戸田力氏、佐賀大学）、そして簿記実務研究部会「地域振興のための簿記の役割—農業・地場産業を対象として—」（部会長：戸田龍介氏、神奈川大学）の研究部会がそれぞれ最終報告を行った。

研究部会報告に続き、藤井秀樹氏（京都大学）の司会のもと、「財務諸表の変容と簿記処理の再検討」を統一論題として、溝上達也氏（松山大学）「財務諸表の表示と簿記処理の変容」、鳥飼裕一氏（あらた監査法人）「負債と資本の区分—利益計算に与える影響—」、佐々木隆志氏（一橋大学）「新しい会計学の考え方と簿記処理の変容—顧客との契約から生ずる収益の認識を中心にして—」、山下壽文氏（佐賀大学）「IFRS 導入によるわが国の引当金簿記処理の再検討」の各報告が行われた。

統一論題報告の終了後は、会場を私学会館アルカディアに移して懇親会が行われ、190 名ほどの会員の参加をいただいた。増田寿男・法政大学総長の挨拶・祝辞のほかに、余興として、法政大学ニュー・オレンジ・スウィング・オーケストラによるビッグバンド JAZZ 演奏が披露された。

大会 3 日目の自由論題報告は、3 会場・5 セッショ

ンで合計 15 の報告が行われた。

第 1 会場では、瀧田輝己氏（同志社大学）の司会で、堀江優子氏（明星大学）「『資産負債アプローチ』と簿記」、国田清志氏（専修大学）「公開草案『顧客との契約から生じる収益』への簿記からのアプローチ」が、また田中建二氏（明治大学）の司会で、吉岡正道氏（東京理科大学）、鈴木健太郎氏、京谷篤征氏（東京理科大学大学院）「包括利益の表示形式に関する社会的合理性」、今村猛氏（公認会計士）「負債の定義と認識についての一試案」、岩崎勇氏（九州大学）「IFRS 型会計モデルの複式簿記への影響」の報告が行われた。

第 2 会場では、渋谷武夫氏（専修大学）の司会で、西村昭一郎氏（龍谷大学大学院特別専攻生）「低価基準の研究」、藤浪英也氏（白鷗大学）「原価差異指導方法の研究」が、また上野清貴氏（中央大学）の司会で、加藤美樹雄氏（神奈川県立厚木商業高等学校）「バランスシート・アプローチによる簿記会計教育」、木下貴博氏（松本大学）「企業結合における取得法（Acquisition Method）の会計処理」、大西新吾氏（仁愛女子短期大学）「複式簿記の基底にあるもの」の報告が行われた。

第 3 会場では、河崎照行氏（甲南大学）の司会で、安部智博氏（大分大学大学院博士後期課程）「米国における金融商品の会計基準に関する一考察」、板橋雄大氏（明治大学）「ダブルスタンダードによる帳簿組織の変化に関する一考察」が、また中野常男氏（神戸大学）の司会のもとで、工藤栄一郎氏（熊本学園大学）・島本克彦氏（関西学院大学）「近代的簿記教育制度化の到達点としての吉田良三『甲種商業簿記教科書』」、江頭彰氏（久留米市久留米商業高等学校）「洋式簿記導入期の会計的認識・測定方法と計算構造」、杉田武志氏（広島経済大学）「17 世紀ロンドン東インド会社における複式簿記導入の目的」について報告が行われた。

前日の報告に続く統一論題討論では、藤井秀樹氏（京都大学）を座長として、4 名の報告者とフロアの会員の方々を交え活発な議論が展開され、全日程を終了した。うだるような暑い夏の盛りにご参加いただいた会員の方々および簿記学会役員の皆様には、ここにあらためて感謝の意を申し上げ、大会報告を終えることにしたい。

《賛助会員（出版社）の活動と会員の著書紹介》

賛助会員の活動の紹介として、昨年の白桃書房、中央経済社の出版物および、これに関わった執筆会員の報告に引き続き、本年度は、税務経理協会と同文館出版を取り上げました。これについて、著作の執筆者は、我が学会の会員であることを条件としておりますので、所属していない執筆者は外しております。

なお、この賛助会員紹介の企画は、今後、出版物に関わらず、広く展開していきますので、賛助会員でご意見や取り上げて欲しい企画をお持ちの会員は、事務局まで、お寄せ下さい。

【税務経理協会】

2010年1月以降刊行

【同文館出版】

2010年1月以降刊行

1 入門の簿記【第3版】

B5判 176頁 定価2,625円 2010年2月
ISBN978-4-419-05410-6
執筆会員 野村健太郎

2 現代基本簿記

B5判 248頁 定価2,940円 2010年3月
ISBN978-4-419-05242-3
執筆会員 小林秀行

3 演習 簿記の基礎【第3版】

A4判 132頁 定価2,100円 2010年5月
ISBN978-4-419-05483-0
執筆会員 西山徹二

4 複式簿記のサイエンス

四六判 288頁 定価1,995円 2011年4月
ISBN978-4-419-05629-2
執筆会員 石川純治

5 初級簿記【改訂版】

B5判 240頁 定価2,205円 2011年4月
ISBN978-4-419-05484-7
執筆会員 椎名市郎

6 テキスト 簿記の基礎【第2版】

A5判 196頁 定価1,890円 2011年4月
ISBN978-4-419-05125-9
執筆会員 西山徹二

7 簿記概論【改訂版】

B5判 312頁 定価3,465円 2011年5月
ISBN978-4-419-05457-1
執筆会員 国田清志

8 複式簿記の基礎

A5判 164頁 定価2,205円 2011年5月
ISBN978-4-419-04148-X
執筆会員 澤登千恵

9 複式簿記入門

B5判 356頁 定価3,360円 2011年5月
ISBN978-4-419-04960-7
執筆会員 瀧田輝己 田口聡志 原田保秀 松脇昌美
矢部孝太郎 吉岡一郎

1 基本 簿記用語辞典（五訂版）

四六版 262頁 定価1,890円 2010年4月
ISBN978-4-495-15515-5
執筆会員 佐々木敏博

2 現代企業簿記の基礎

A5版 392頁 定価3,780円 2010年3月
ISBN978-4-495-19451-2
執筆会員 松本康一郎

3 簿記の基本を学ぶ（第3版）

B5版 304頁 定価3,150円 2011年3月
ISBN978-4-495-16953-4
執筆会員 橋本尚

4 簿記の技法とシステム（第3版）

A5版 234頁 定価2,625円 2011年4月
ISBN978-4-495-18153-6
執筆会員 鶴池幸雄 大城建夫 多賀寿史 仲尾次洋子
外間礼子

5 中世フランス会計史

13—14世紀会計帳簿の実証的研究

A5版 280頁 定価4,515円 2011年8月
ISBN978-4-495-19621-9
執筆会員 三光寺由実子

6 簿記が基礎からわかる本

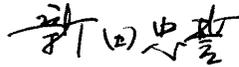
～中級レベルまで～

A5版 216頁 定価2,415円 2011年9月
ISBN978-4-495-19631-8
執筆会員 清村英之

7 基本簿記入門（第四版）

A5版 234頁 定価3,045円 2011年9月
ISBN978-4-495-16404-1
執筆会員 建部宏明 長屋信義 山浦裕幸

[注] 執筆会員の氏名掲載順序は「日本簿記学会会員名簿」に基づき、アイウエオ順、正会員・準会員順になっております。



この度、第27回全国大会で理事に選出され、新理事会において会長に選ばれました。故興津裕康前会長の後を受け、初代故新井益太郎会長以来、第9代の会長となります。これまで会長は総て本学会発起人の中から選ばれてまいりました。私は設立当時、慶應義塾大学の助教授で、発起人であられた故会田義雄先生の下にあり、発起人に名を連ねられる立場ではありませんでした。今回、発起人以外から初めて選出されたということで、学会として一つの区切りになったようで身の引き締まる思いであります。加えて、本学会は1985年の設立以来四半世紀を超え、壮年期に入りつつあります。次の発展の礎を築くことが求められていると感じております。

申すまでもなく、わが学会の目的は「簿記の理論、実務および教育などの振興をはかる」（設立趣旨書より）ことにあります。この趣旨に沿い、簿記に関わる、大学・高校・専門学校教員、公認会計士、税理士、経理担当社員、コンサルタント等々と多様な分野の会員が集い、更に法人会員（賛助会員）も擁しております。この点、いわゆる社会科学系の学会としては異色の学会といえますが、これが本学会の強みになっていると思っております。

私の卒業学部は福島大学経済学部ですが、当時の経済学部（旧高商（Handelshochschule）系の学部）では殆どが簿記は必修でありました。私と同年代の会員の中には簿記で苦勞された方も多いのではないかと推察しております。そう言う私もその一人でした。しかし、学生・生徒の自主性・興味の尊重とかいう教育方針の所為でしょうか、現在では、経営・商学系の学部ですら簿記を必修とする学部は少なくなってきたようであります。そもそも学問や学習は苦勞するから、その技能や知識ならびに論理を体得できると私は信じており、いわゆる‘授業評価’等、学生・生徒に阿ね、学ぶ者の苦勞を避ける教育には疑問を持っております。

近年「簿記離れ」という言葉を耳にします。原因が、産業経済社会に対する興味どころか、計算すらおぼつかない学生や生徒を生みだした“ゆとり教育”にあることは大方の会員の皆様も体験済みであると

思われます。簿記離れを象徴するかのようには、商業高校が廃校となるか総合高校に統合化される現象も目立ちます。これは、前掲の経済系大学の簿記非必修化とともに、わが国産業（大企業のみならず地場産業）の未来にとっても由々しき問題であると思われます。簿記技能を身に付け、計数に基づく管理のできる“商人”（合理的経済人）の存在、そして、これを支える簿記は産業の発展にとって必須であります。わが学会は簿記の研究・教育・実務の振興を図る学会として、わが国産業経済を支え、“ゆとり教育”の犠牲者を助けることは勿論、非合理的な教育を実践してきた教育行政にも、国民として物申さなければならぬかもしれません。嘗て社会で必要な資質として『読み、書き、算盤』と言われましたが、これを凝縮したのが簿記であると信じております。

ところで、第27回全国大会統一論題・討論会の場で司会の藤井秀樹教授の指名により総括として、これからの簿記の問題点と課題について安藤英義企業会計審議会会長が①「簿記検定」のあり方および②「実務指針」の会計処理を挙げられましたが、私も同感であり、その場の会長挨拶でも即興でこれらへの現下の回答を示しました。前者①については、幸い本学会は公益社団法人全国経理教育協会の簿記検定を後援しておりますので、簿記教育のあるべき姿の模索と発展にこの後援を利用できないかという思案であります。後者②については、何らかの提案を世に問う必要があります。これに関して今回、当学会に与えられた産業経理協会の研究助成を元に、これまでの本学会研究部会の成果をまとめた事典（『勘定科目・仕訳事典』中央経済社）を刊行できました。今後もこのような機会を作り、世に問うていくべきであると思っております。

最後に、会員の皆様と一緒に、広く簿記理論研究・教育・実践の場として本学会を更なる発展に向けて進めていきたいと思っております。皆様のご支援とご協力をお願いする次第であります。

また、個人法人を問わず、開かれた本学会の趣旨に賛同され、簿記の未来にかけていただける各位のご入会もお勧めし、共に歩んで行けることを望んでおります。

平成23年10月

（日本簿記学会HPにも掲載）

平成 22 年 8 月 27 日以降，平成 23 年 8 月 24 日までに申し込まれ，8 月 25 日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

入 会 会 員 名 簿

(名簿の番号は会員番号)

番 号	氏 名	所 属 機 関	番 号	氏 名	所 属 機 関
2011-001	福永 敦子	(学)原田学園 鹿児島情報高等学校	2011-027	張 夏玉	明海大学経済学部非常勤講師
2011-002	中井 毅	国立大学法人筑波大学附属坂戸高等学校	2011-028	峯岸 正教	埼玉学園大学経営学部
2011-003	藪下 保弘	(財)北國総合研究所	2011-030	鳥飼 裕一	あらた監査法人
2011-004	高橋 俊也	開志学園高等学校	2011-033	亀永 辰之	富山県教育委員会
2011-005	黒木 亮谷	(学)黒木学園	2011-034	丸山 佳久	中央大学経済学部
2011-006	赤塚 晴彦	(学)赤塚学園	2011-035	村田 智之	甲南大学会計大学院
2011-007	楯岡 一也	(学)名古屋大原学園 大原簿記情報医療専門学校	2011-036	柳 裕治	専修大学
2011-008	永井 辰己樹	(学)名古屋大原学園 大原簿記情報医療専門学校	2011-038	伊藤 昭弘	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
2011-009	橋村 一平	(学)名古屋大原学園 大原簿記情報医療専門学校	2011-039	今枝 千樹	愛知産業大学
2011-010	山本 孝史	(学)名古屋大原学園 大原簿記情報医療専門学校	2011-040	徳前 元信	福井県立大学
2011-011	横井 敬仁	(学)名古屋大原学園 大原簿記情報医療専門学校	2011-042	紫関 正博	青森公立大学経営経済学部
2011-012	栗林 孝昌	東北経理専門学校	2011-044	三條 聡	三條公認会計士税理士事務所
2011-013	平石 智紀	監査法人アヴァンティア	2011-045	神谷 健司	法政大学経営学部
2011-014	西村 昭一郎	京都府立京都すばる高等学校講師		〈準会員〉	
2011-015	岩田 俊行	ネットスクール(株)	2011-021	猪熊 久美	青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科
2011-016	梶原 晃	追手門学院大学経営学部	2011-022	丸岡 恵梨子	中央大学商学研究科
2011-017	城 冬彦	立正大学経営学部	2011-023	高坂 紀広	中央大学商学研究科
2011-018	板橋 雄大	明治大学会計専門職大学院会計専門職研究科	2011-029	中溝 晃介	神戸大学大学院経営学研究科
2011-019	高野 仁一	高野国際会計事務所	2011-031	京谷 篤征	東京理科大学大学院
2011-020	西川 潤一	神奈川県立厚木商業高等学校	2011-032	鈴木 健太郎	東京理科大学大学院
2011-024	古川 忠彦	TKC全国政経研究会	2011-037	松本 徹	専修大学大学院商学研究科
2011-025	引地 夏奈子	関西学院大学商学部	2011-041	長田 芙悠子	明治大学大学院経営学研究科
2011-026	上西 左大信	日本税理士連合会	2011-043	半澤 繁	神奈川大学経営学研究科

事務局からのお知らせ

編集後記

本年 8 月の日本簿記学会第 27 回全国大会にて行われました役員選挙の結果，新田忠誓氏（帝京大学）を新会長とする新たな役員体制がスタートいたしました。今回のニュースに，新理事の諸先生の役割分担を記載しておりますのでご参照いただければと存じます。幹事一同，微力ではありますが，新理事の諸先生の下におきまして円滑な学会運営のお役に立

てるよう努力して参りますので，会員の皆様のご協力のほどお願い申し上げます。

(清水・中村・和田・渡邊・渡辺)

発行所
編集兼
発行人
連絡事務所

日本簿記学会事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail boki@hakutou.co.jp
URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>